

## 瀋陽駐在員事務所



方圓大廈

### 「堂々世界第9位！」

米国 CNN が発表した「世界十大奇妙なビル」第9位に、我々が「方圓大廈」がランクインした。あまり名誉なことではないようだが、在瀋陽米国総領事館の見方は全く違っている。同館文化領事は、「方圓大廈はとても美しく、クールなビルディングであり、中国の伝統文化理念を表している」と評し、さらに「CNN は民間企業であり、今回の発表が米国民の声を代表するものではない！」と言い切っている。また「多くの米国民が、経済発展を遂げている瀋陽を知り、その発展の象徴が方圓大廈であることを知ったのはラッキーである」と前向きなコメントを出している。こんなやりとりに、中米関係の変化が見て取れるというのは言い過ぎだろうか……。ちなみに、今回の上位3位は、北朝鮮「柳京飯店」、ドバイ「アトランティス・ザ・パームホテル」、ルーマニア「国会議事堂」であった。

正司 毅

## (財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室



### 「ある日本料理店の実情」

中国では地方出身労働者は旧正月には必ず帰郷し家族とのひと時を過ごします。

またこの時期は、労働者の離職も増える時期でもあります。帰郷したまま北京へ戻らない、条件の良い他の勤め先へ転職するなど要因は様々です。

中国の労働者は日本ほど会社への帰属意識はなく、給料や福利厚生で条件の良い勤め先があればあっさり転職しています。一方で経営者から見れば有能な人材を転職させず雇用し続けることは頭の痛い問題でもあります。

私がある日本料理店の日本人責任者の方からお聞きしたところでは、人材確保の為に宿舍の確保や親元への仕送りに際しての会社補助など福利厚生面の充実を図っているとのことでした。

人件費自体も右肩上がりです。上昇を続け、家賃や材料費などコスト上昇要因は山積みしている中利益を出し続けていくためには売上自体を伸ばし続け、コストを吸収していく以外に方法がないのが実情なのです。

この責任者の方は「明日、従業員が全員出勤しないかもしれない、という恐怖感」は常にあります。しかしそうになったら僕らの（経営者の）負けと認めざるを得ません」と話されていました。異国の地、世界経済の牽引役である中国の地でビジネスを続けていくのは一筋縄ではいかないようです。

中島 康成

## ユジノサハリンスク駐在員事務所



## 「初めての海外赴任で・・・PART8」

## サハリンの冬物語

ロシアと聞くと、多くの日本人は“寒さ”をイメージすることでしょう。正解です。私も着任前は寒くて、暗いイメージしかありませんでした。冬のサハリンは当初のイメージ通りです。正月休み明け、いきなり最低気温 $-32^{\circ}\text{C}$ を初体験。その週は連日、最低気温 $-30^{\circ}\text{C}$ の日々が続き、時間帯では出勤時7時30分頃（時差が有り、2時間早い～日本時間5時30分）が日中最も冷え込みました。左の写真はユジノ市街の夜景を撮った訳ではありません。これがユジノの“朝の通勤風景”です。毎日、毎日、暗闇の中を寒さに耐えながら出勤し、また暗闇の中を帰宅しています。

一方、室内は集中暖房のため、常に $20^{\circ}\text{C}$ と暖かく、内外の温度差が $50^{\circ}\text{C}$ も有り、これが健康状態を悪化させる要因の一つとなっています。しかし、これが“ロシアの冬”だと言うなら慣れていくしか無いでしょう。早くこの環境に慣れ、 $-20^{\circ}\text{C}$ で“過ごし易い”と感じる体質になって欲しいものです。

三上 訓人